

平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム つくえ(東ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000088		
法人名	中城興産株式会社		
事業所名	グループホームつくえ(東ユニット)		
所在地	岩手県下閉伊郡田野畑村机299番地		
自己評価作成日	平成 29 年 11 月 23 日	評価結果市町村受理日	平成30年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0393000088-00&PefCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成29年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>基本理念「日々笑顔、日々楽しく、自由なあなたらしさをささえるケア」をもとに利用者が生きがいをもち楽しく安心に笑顔が絶えない環境を作っている</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、旧机小学校を改修したもので、地域の人々にとっても思い入れのある施設である。近くには地域消防防災センターがあり、地域の避難所にもなっている。台風10号の際は、被災地岩泉地域の緊急避難所として対応した経緯もあり、災害時の協力員に元消防団員を依頼するなど地域との協力体制も築かれている。開設以来7年目の事業所は職員の向上心も強く、ケアマネの資格を取得した職員もおり、また、介護福祉士の資格取得に向けて挑戦するなど能力向上を目指している。また、広報を毎月発行し情報を発信するとともに、地域包括支援センター等関係機関の連携による認知症カフェを開き、認知症の理解と啓発に努めている。事業所には立派な体育館が併設されており、地域のみならず広く村内に周知して、盛大に夏祭りを開催しているほか、地元婦人部のボランティア(踊り、お茶会)受け入れ、敬老会の開催など、体育館を地域と共用している。時には職員により海岸線のゴミ拾いを行うなど事業所自体が地域の一員として日常的に交流を深めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つくえ(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念の「日々笑顔、日々楽しく、自由なあなたらしさを支えるケア」をもとに安全、安心、満足を提供している。毎日の朝礼で基本理念を復唱している	理念の主旨を常に意識して実践に生かすとともに、利用者・家族の理解を得るため、ホーム内の目につきやすい随所に掲示しているほか、毎日の朝礼や職員会議で唱和や話し合いを行い、理念の共有を図り実践につなげる取り組みをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や施設のお祭りや行事に参加したり地域の婦人部等に参加してもらい交流している	施設が地域の避難場所の指定を受けているほか、認知症カフェ等を開催し地域の方々との交流を図っている。また、地域の清掃活動への参加のほか、小学校やボランティア団体の協力のもとに夏祭りを開催し、100人を超える地域住民の参加を得るなど、地域との連携を大切に運営している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括主催の認知症カフェを行い理解や支援の仕方など話している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者状況、施設の活動を報告し取り組みについての話し合いや意見をもらっている。利用者と同じ昼食を食べたり救命講習や避難訓練にも参加してもらっている	運営推進会議では委員から避難訓練への参加や利用者の防災頭巾の活用などの意見や提言があり具現化しているほか、委員と利用者との昼食の機会を設け、日頃の運営への理解と気づきの助言等を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月地域ケア会議に出席し役場や他施設の担当者、地域包括支援センターと連携を取っている	運営推進会議に村担当者の出席があり、行政情報の提供を受けているほか、地域ケア会議や各種研修会等に出席し情報交換や相談をしている。また要介護認定の変更申請や生活保護の届出など、手続き等でも指導、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の安全確保のために玄関の施錠の工夫や身体拘束委員会を構成し日々ケアの向上に取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、日ごろのサービス内容の確認と、未然防止に努めているほか、外部研修会への参加や他施設の見学などを通じて、身体拘束防止への理解と知識を深め日々の実践に反映している。なお、転倒防止のためのセンサーを設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について知識をつけ防止に努めている。入浴時や更衣交換時に身体に異変がないか確認し記録している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性の話し合いはしていないが必要性があれば地域包括支援センター等と連携し支援していきたい。権利擁護に関する研修会に参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する時、契約内容や重要事項説明を不安や疑問を確認しながら理解、納得してもらえるように分かりやすく説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置や苦情窓口を開設している。日々の日常会話から聞いたり面会時や運営推進会議に意見や要望を聞き運営に反映している	利用者の生活情報は、広報を通じて毎月知らせているほか、家族の意向は、面会時や電話等により把握している。また、日々の生活の中で利用者の要望等を取り入れ、「やりたいこと」のお手伝い、入浴時間や食事提供時間の変更などに配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別の面談や管理者会議を開き意見や提案を聞く機会を設けている	職員会議や職員との個別面談での意見や提案を畑づくりから夏祭りの開催まで、事業所運営の様々な分野に活かしているほか、勤務時間の改善や、職員の資格取得に係る受講費用の支援など、能力向上と勤労意欲の高揚に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望する勤務条件に出来る限り応えている。昇給、資格手当、夜勤や宿直手当、賞与の支給に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に積極的に参加したり資格取得のための研修等に配慮、協力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お祭り等の行事への参加や研修会、交流会に可能な限り参加している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前入所以降に利用者や家族からの不安な事や要望等聞き入れ本人が安心して生活出来る様に支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族と面談を行い不要な事、要望等しっかりと把握し信頼関係を大切にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じた支援を提供するように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室掃除、洗濯ものたたみ、食事の下準備、片付けなど職員と一緒にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回広報を発行し施設での行事や生活の様子など近況報告している。必要時には電話などでの対応をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話があった時、面会時には本人が自室でゆっくりと話ができる様に配慮している	地域行事への参観のほか、事業所が行う夏祭りや敬老会等に地域の方々やボランティアが参加する等の交流がある。お盆や正月等には自宅に帰り馴染みの方との話や楽しい外食等をしている。また、ホームに友人や知人、親戚が訪れ、海草や団子等の差し入れもあり、馴染みの関係継続に繋がっている。なお、島越の馴染みの理容院が月1回来てくれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の状況、状態をみながら利用者へ声掛けし支えあえる様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見、希望は尊重し、出来る限り意向に沿えるよう支援に努めている	生活歴などや利用者本人、家族の話から把握するほか、日々の生活の中で、利用者寄り添いながら汲み取っている。一人ひとりの個性と生きがいを大切に、お手伝いや畑作業、塗り絵等の趣味活動など、利用者の意向に配慮し、サービスを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に情報収集しサービスに反映させている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を観察し把握するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	二カ月に一回の運営推進会議やユニット会議で全体と個別のケアの方法を検討している	居室担当によるモニタリングや意見を聞き、日常のADL等の日誌記録の変化や申し送り事項を参考に職員会議等で話し合い、かつ家族の要望等を聴きながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で毎日申し送りをを行い利用者の様子等、意見交換や記録をしている。ユニット会議時、意見、情報交換をしている、		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の家族や本人からの依頼があった場合、通院や買い物など代わって行う事がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や避難訓練など地域住民と協力して行う事がある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を大切に、ほとんどの利用者が地元の診療所へ施設対応で受診している	家族等の同意のもと、入居時にかかりつけ医を協力医に変更している。なお、精神科や皮膚科、眼科などの専門医には、従前の医療機関を受診している。受診は原則家族同伴としているが、家族の要請により職員が同行する場合もある。インフルエンザなどの予防接種もかかりつけ医で対応している。岩泉にナースサポートがあり、週1回看護師が来てくれるほか、24時間電話での相談も出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は居ないため、体調不良時には診療所等を受診し対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時必要な情報を提供し安心して治療出来る様支援している。退院時には安心して過ごせる様情報交換や相談等もしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設で対応が難しくなった時の事を事前に家族と話し合っておき特養等の施設の申し込みをし対応している	入居の際重度化及び終末期において医療措置が必要となった場合について、他の施設を紹介する旨を説明している。なお、看取りの経験はないが、週1回の看護師による訪問指導を受けることとなったことから、今後、家族の意向を確認しながら、看取りへの体制の整備と、職員の知識や技術の習得に取り組むことを検討している。	看取りへの体制整備のため、かかりつけ医や訪問看護ステーションの指導や助言のもと、対応指針の整備、職員の知識向上の研修の実施、他施設の見学などの検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が急変に対応出来るよう定期的に講習や訓練を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行っている。地域の方も参加している	施設が避難場所として指定を受けているほか、台風災害時に、避難者を受け入れるなど、積極的に地域の防災、安全対策に取り組んでいる。地域住民の協力のもとに、総合訓練、夜間想定訓練を運営推進会議の開催に併せて実施するなど、意見や提案を受け入れ改善に繋げている。乾物などの食材の確保、発電機などの備品も整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入室の時はノックし入室している。トイレ誘導等の声掛け時も言葉遣いに気を付けている	個人情報や日々の生活状況は、利用者ごとにパソコンで管理し、タブレットにより職員が確認している。各自の個性を大切に、方言の活用や話し方などを工夫し、親しみをもってサービスを提供している。特に入浴、排泄など利用者の心情を大切に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	和やかな会話の場を作り本人が話しやすくなるよう工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に心がけ支援しているが、希望に沿えないこともある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	受診、外出、行事の時は利用者本人の好みの服装を一緒に選び、おしゃれが出来る様支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の畑で収穫した新鮮な野菜を取り入れ調理の下準備にも参加している。職員も同じテーブルで食事している	スーパーが遠く買い物に不便なため、各ユニット毎食材表を作り、週2回業者から配達してもらっている。利用者のできることを手伝ってもらいながら、家庭料理を心がけ、季節の旬の食材や海産物など地域の食材を利用し、郷土に根ざした料理を提供している。菜園の作物や農家の差し入れ野菜、地域特産の乳製品も活用している。誕生会では本人の希望により、チラシ寿司、カレーなどを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量については一人ひとり状態に合わせて提供している。塩分控えめにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の口腔状態に応じたケアを努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに個々の排泄パターンを把握し必要に応じた声掛けやトイレでの排泄の自立にむけた支援をおこなっている	利用者ごとの排泄チェック表を活用し、さりげなく誘導、案内している。自立での排泄支援に力をいれ、2ユニット全体で見たとき、パンツの上げ下げの部分介助の必要な方は2人で、他の16人は自立し、見守り、声かけ程度である。夜間のトイレ誘導、ポータブルトイレの利用も各1名で、布パンツの利用者も多く、オムツ使用は少ない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の献立を工夫したり水分摂取量の確認をしている。適度な運動も取り入れ便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ利用者の希望に沿えるよう支援している	入浴時間は、西ユニットは午前、東ユニットは午後として週2回は入浴できるよう利用者個々に曜日を決めている。入浴を拒否する方も時間調整し入浴支援をしている。入浴介助は頭、背中洗い程度である。季節にはゆず湯、菖蒲湯を提供している。昔話や歌で楽しむ方や、静かにし安らいでいる方もいる。冬季は電気ストーブにより脱衣所の暖房確保に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況にあわせ、居室の温度設定を行い安眠出来る様支援している。起床時間、就寝時間は本人のペースに合わせている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況をファイルにまとめ常に確認出来る様にしている。服薬時には名前や服用するまでの確認を徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自室掃除、洗濯たみ、調理の下準備、レクリエーションなど個々に沿って支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿えるように努めている。家族や職員の協力により可能な限り支援している	暖かい時期に、施設の周辺を散歩するほか、玄関入口の長いすで日向ぼっこをしている。畑作業やプランターの管理のほか、周辺の草取りを行なっている。ドライブでの花見、北山崎、机浜等の名勝、ウネトリ神社などに出かけるほか、公民館での敬老会等に参加している。家族と墓参りをする方、正月に外泊する方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との相談で施設で預かったり自己管理している利用者もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者もいる。希望があれば手紙等の支援も行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、利用者作成のちぎり絵、塗り絵などを飾り気持ちよく生活出来る様工夫している	元小学校の校舎を活用し、広々としたロビーや調理室、事務室が機能的に配置されており、高い窓から明るい日差しが差し込み、エアコン、換気扇、加湿器、ストーブにより温度や空気が管理され、快適な環境の下に、食事用テーブルやソファでくつろいでいる。植木鉢や生花、手作りの作品などに囲まれ、落ち着いた雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室でゆったり静かに過ごしたり、廊下のソファで気の合った同志で談笑している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を置いてる方もいる。ベッドやクローゼットも本人の希望の位置に移動している	教室を区分けした広い部屋に、利用者の意向に沿い、ベッド、クローゼット、イス、机が配置され、家族写真やテレビ、化粧品や位牌など思い思いの物が持ち込まれているほか、手づくりの作品が掲示されている。エアコン、換気扇、ナースコールが設置され、温度、空調が適正に管理され、安心、安全が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすく表示し廊下等、歩行を妨げるものは置かないように配慮している。自室に洗濯物を干している方もいる		